



[野菜部門]

[農業研究所ホームページへ](#)

3. 準高冷地の加工・業務用キャベツ栽培に適する品種「なつおこ」

[要約]

岡山県の準高冷地で夏期の加工・業務用キャベツ栽培に適する品種は「なつおこ」である。大玉で揃いが良く、7 t/10a 以上の収量が期待できるとともに、裂球しにくく、内部障害も少ない。

[担当] 岡山県農林水産総合センター農業研究所 高冷地研究室

[連絡先] 電話 0867-66-2043

[分類] 技術

[背景・ねらい]

真庭市蒜山地域では、準高冷地の冷涼な気候を活かして、契約単価が高い夏期に加工・業務用キャベツ栽培が行われている。加工・業務用キャベツには、大玉で揃いが良く、裂球しにくいこと、あるいは結球葉にアントシアンやチップバーン等の内部障害が少ないことが求められる。そこで、ここでは準高冷地の夏期栽培に適する加工・業務用品種の選定を行う。

[成果の内容・特徴]

1. 「なつおこ」（図3）は、加工・業務用キャベツの出荷要件である1 kg 以上の結球割合（可販株率）、可販結球重及び収量が、蒜山地域の標準品種「初恋」と同等である（表1）。
2. 「初恋」は、7月中旬から10月下旬の収穫期にかけて結球葉にアントシアンが発生したのに対して、「なつおこ」では、10月下旬収穫のみで、発生率は顕著に低い（図1）。また、夏期栽培に用いられる他品種と比較しても少ない（データ省略）。
3. 収穫が遅れても裂球しにくく、優れた在圃性を示す（図2）。

[成果の活用面・留意点]

1. 本試験は、農業研究所高冷地研究室圃場（黒ボク土壌）で実施した7～10月収穫の栽培結果である。200穴セルトレイで育苗した後、栽植本数を10a当たり3,846本（畝幅130 cm、株間40 cm、二条千鳥植え）で定植した。
2. 基肥は複合肥料（ホウ素入り苦土硫加磷安250、12-15-10）及びF・T・E特1号を用い、10aあたりに窒素20kgを定植直前に施用し、追肥としてNK化成（NK-C12号、16-0-20）で窒素5kgを施用した。
3. 病虫害耐性は未検討であるため、地域慣行に準じて防除を実施する。
4. 「なつおこ」でも、長期間の乾燥及びその後の多雨により、チップバーン等の生理障害が発生することがある。



[具体的データ]

表1 可販株率、結球重及び収量^z（各年度6作平均）

品 種	2019年			2020年			2021年			3か年平均		
	可販株率 (%)	結球重 (kg)	収 量 (t/10a)	可販株率 (%)	結球重 (kg)	収 量 (t/10a)	可販株率 (%)	結球重 (kg)	収 量 (t/10a)	可販株率 (%)	結球重 (kg)	収 量 (t/10a)
なつおこ	90	1.97	7.8	96	1.93	7.4	98	1.96	7.4	95	1.95	7.5
初恋	94	2.01	8.3	95	1.87	7.2	98	1.99	7.5	96	1.96	7.7

注）可販株率、結球重及び収量には、t検定（5%水準）により有意差なし。2019年は株間35cm、2020年及び2021年は株間40cmで栽培した結果である

^z 結球重及び収量は重さ1kg以上の可販結球について平均値を示した

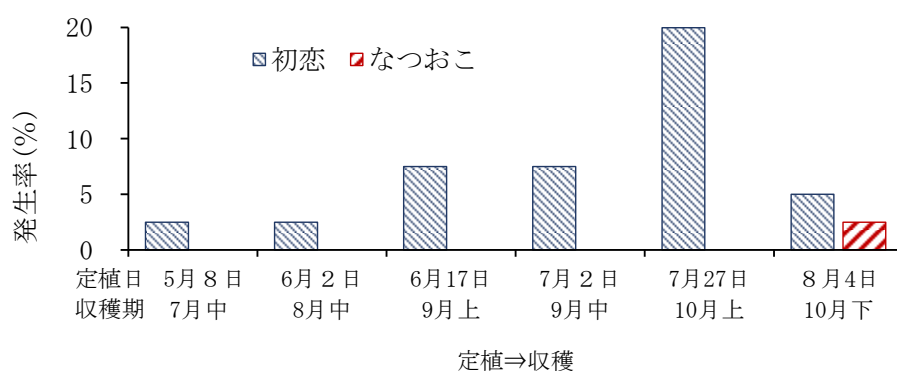


図1 結球葉縁部のアントシアン発生率（2020年）

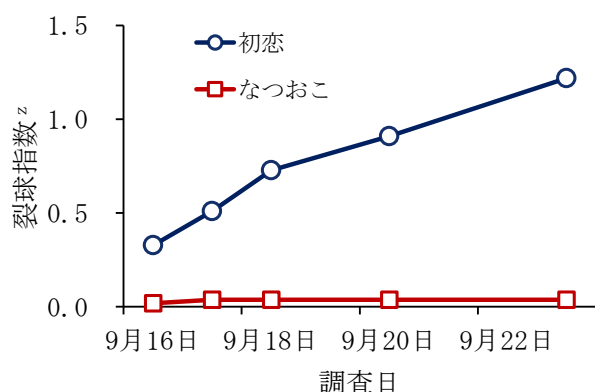


図2 裂球の経時変化（2020年）

^z 裂球程度を4段階〔0：無、1：軽微（表面の葉のみの割れ）、2：中（2、3枚程度の葉の割れ）、3：甚（深層部まで裂球）〕に分類し平均した（n=53）

図3 加工・業務用に適する
キャベツ品種「なつおこ」

[その他]

研究課題名：準高冷地に適した加工・業務用キャベツ安定生産技術の確立

予算区分・研究期間：県単・令和元～3年度

研究担当者：田村尚之

関連情報等：1）試験研究主要成果、[令2（37-38）](#)、[令3（45-46）](#)